

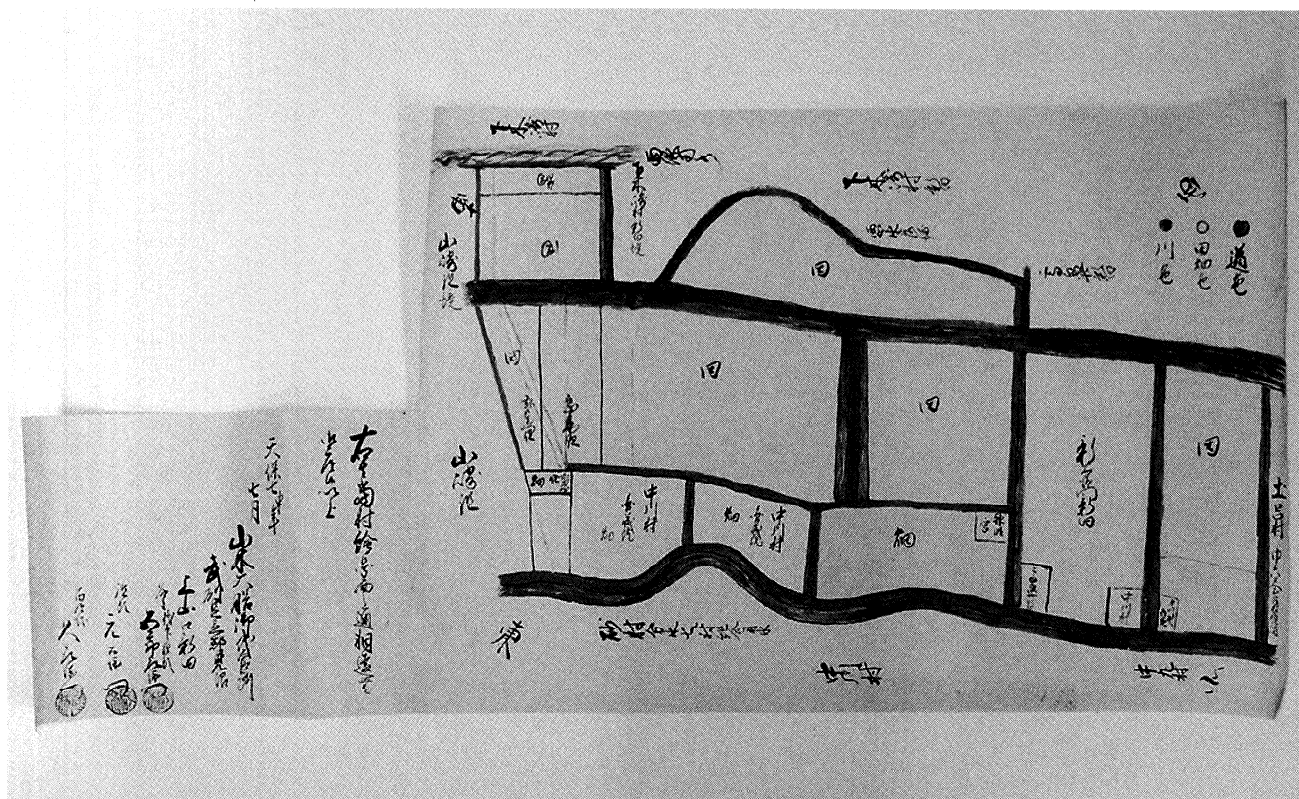
さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 46-1
通号 第 114 号

「あかんさす」とは、浦和博物館2階バルコニー柱頭に見られる植物の葉の彫刻で、当館を象徴するキーワードの一つとなっているものです。

幕末維新の村絵図(1)



▲図1 上山口新田絵図 天保7年(1836) (個人蔵 さいたま市立浦和博物館寄託、以下同じ)

さいたま市立浦和博物館では、平成29年10月21日(土)から12月3日(日)まで、「幕末維新の村絵図」と題する特別展を開催しました。

本展示は、江戸時代に三室村(現・緑区三室ほか)の名主を務めた武笠家から近年新たに発見された、幕末から明治維新时期に描かれた市域の村絵図62点のうち、51点を紹介したものです。

武笠家は、江戸時代初期から幕末まで三室村名主を世襲した家です。三室村は広い村であるため、村内を山崎・宿・馬場・松木・芝原の5集

落に分けた組が置かれてましたが、武笠家は山崎組の組名主も務め、また文政10年(1827)から明治3年(1870)まで置かれていた寄場組合(治安維持機構)の一つ浦和宿組合の惣代も兼ねており、この関係で同組合に属する村々の絵図の控えが残されていたものと考えられます。

今号では、幕末期に描かれた村絵図の中から特徴的なものを取り上げ、これらの絵図が作製された背景や内容について考察します。



天保7年(1836)の村絵図

今回の展示資料で、年号から描かれた年代が江戸時代に特定できるものは6点あり(巻末一覽参照)、このうち天保7年7月に作製された村絵図が4点確認されました。同年同月付けで、異なる村々により絵図が作製されたことには、どのような理由があったのでしょうか。

天保6年(1835)12月、江戸幕府は全国の諸大名や旗本等に対し、元禄年間(1688~1704)に幕府が作成した「元禄国絵図」(「武蔵国」など、廃藩置県まで存在した一国単位の絵図)の改訂を行うための調査を命じました。この調査のため、幕府担当役人が村々を回る「廻村」が行われました。現在のさいたま市域の大部分を含む武蔵国足立郡は、翌7年7月に「武蔵国絵図」改訂に伴う廻村があり、組合惣代の村を経由して、各村絵図が幕府役人に提出されました(註1)。

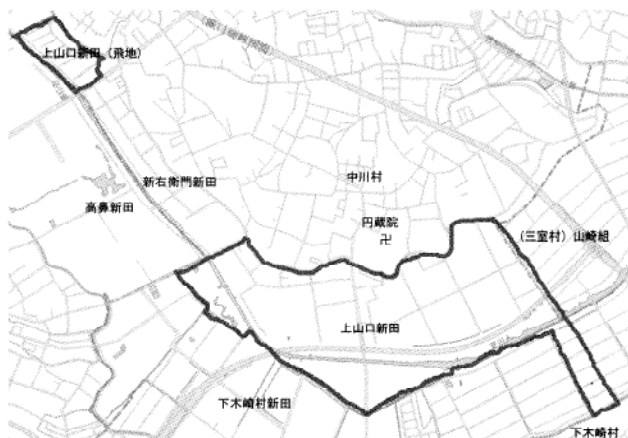
この4点の村絵図については、作成の動機を直接的に示す資料が見当たらないものの、作成年月と絵図の内容、傍証史料による幕府役人による足立郡廻村実施の事実等から、上記国絵図調査に関係して作成されたものと推定し、展示しました。

(註1) 重田正夫「武蔵国における天保国絵図の調査過程」(『埼玉県立文書館紀要』第19号) 平成18年

上山口新田の概要

では、図1・上山口新田絵図を例に、描かれた内容について具体的にみていきます。

上山口新田は、現在の見沼区上山口新田及び浦和区三崎の一部にかかる区域にあたります(図2)。享保年間(1716~36)に開発された見沼新田



▲図2 江戸時代の上山口新田周辺図

の一つで、下山口新田(現・緑区下山口新田)とともに、江戸の商人鯉屋藤左衛門(名字は山口)により開発されたことから、その名があります(註2)。

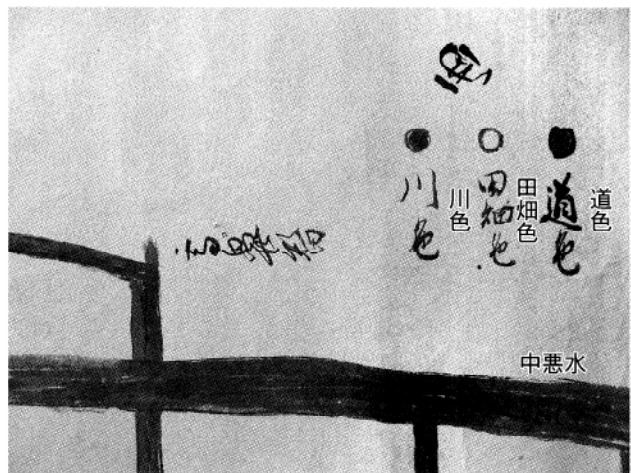
江戸時代を通じて幕府領で、村域の約90パーセントが見沼の低地からなり、北東部に若干の微高地がみられるという地形をした場所です。

『浦和市史』通史編Ⅱによると、上山口新田は浦和宿組合に所属していたか史料的に確認できないものの、位置的には浦和宿組合に入っていたと考えられるとされています(註3)。今回、同組合惣代を務めた武笠家から村絵図が発見されたことで、その可能性がより強まったとみることができます。

(註2) 『新編武蔵風土記稿 第7巻』(大日本地誌体系13) 昭和56年 雄山閣

(註3) 『浦和市史通史編Ⅱ』562頁 昭和63年 浦和市総務部市史編纂室

形態・彩色・方位



▲図3 凡例

一枚物の手書き平面図で、縦32.6cm×横47.8cmの絵図左下余白に、縦16.6cm×横23.7cmの差出書を継いだ形態で、全面に裏打ちが施されています。

彩色区別については、絵図右上の余白部分に凡例があり、右側から茶色が「道色」、黄色が「田畑色」、青色が「川色」となっています(図3)。方位は、絵図四隅に記載がありますが、「西」及び「南」を上、「東」及び「北」を下に描いているため、現在の地図と比較する際にはこの点に留意する必要があります。なお、縮尺の記載はなく、この絵図は距離や面積の精度よりも、一枚の



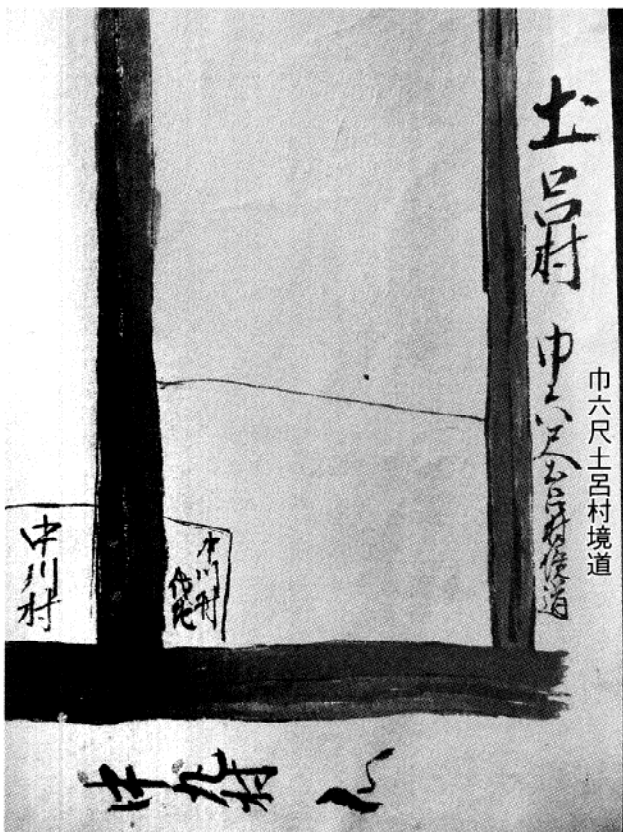
紙上に村の範囲全域を収めることに重点を置いて描いたものといえそうです。

村境

上山口新田と境を接する村々については、村名が絵図に墨書されています。土呂村新田（現・大宮区堀の内町）、高鼻村新田（現・大宮区天沼町）、下木崎村新田（現・浦和区大原）、下木崎村（現・浦和区木崎）、山崎組（現・緑区山崎、三室）、中川村（現・見沼区中川）、中丸村（現・見沼区南中丸）、新右衛門新田（現・見沼区新右エ門新田）と周囲を接し、新右衛門新田の北に飛地があります。逆に、上山口新田内には、中川村及び高鼻新田、中川村円蔵院領の飛地があることがわかります。

道・田畑・川・建造物

新田内には、田畑に入るための小道が縦横に見られますが、北から東に流れる砂村分水沿いの道のみ、唯一隣村に通じていました。なお、新右衛門新田北側の飛地と土呂村新田境の道幅については、「六尺」（約2m）あったということがわかります（図4）。



▲図4 道幅の表記

土地の利用状況は、水田が多くを占めており、わずかに南端下木崎村境及び北東中川村境、東端山崎組境付近に、畑が認められます。

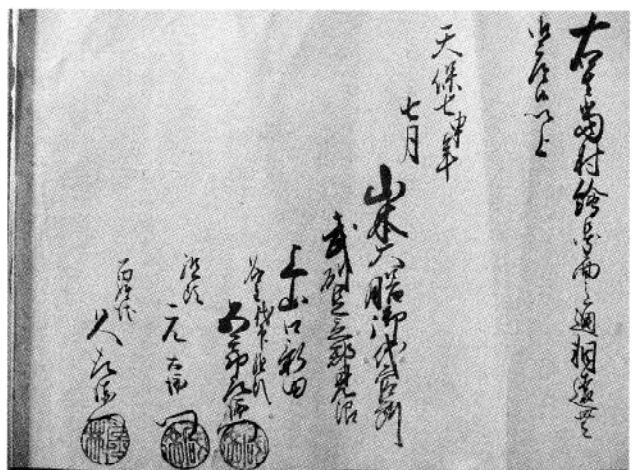
主な河川としては、「西縁用水」（見沼代用水西縁）、「中悪水」（芝川）、「砂村分水七ヶ村組合用水」（砂村分水）が流れ、用水から田に引くための水路と、田から芝川に排水するための水路や堀がみられます。砂村分水は、享保13年（1728）の見沼代用水開通に合わせて、砂村（現・見沼区東大宮）・大和田村（現・見沼区大和田町）・土呂村新田（現・北区見沼、大宮区堀の内町）・上山口新田・新右衛門新田・三室村山崎組・新井新田（現・見沼区東新井）の7か村新田の灌漑用水路として、砂村地内で見沼代用水西縁から分水し、新井新田までの区間に開削された用水です。

このほか、建造物として、新右衛門新田境の畑地の一角に「神明宮」の記載がみられます。

年代・作製者

絵図に貼付された書付には、「右者、当村絵図面之通相違無御座候、以上」という、上山口新田の現況図に相違ない旨の記載があり、「天保七申年七月」の年月とともに、「山本大膳御代官所 武州足立郡見沼上山口新田」の絵図作製者として「名主 代印組頭 五郎左衛門」、「組頭 元右衛門」、「百姓代 久左衛門」という、村方三役（ただし、組頭の一人が名主の代印）の肩書及び名前の記載があり、押印がなされています（図5）。

次号では、明治初期の村絵図について紹介します。（学芸員 雨宮正人）



▲図5 年月・村名・村役人名の記載部分



特別展「幕末維新の村絵図」 展示資料

No.	資料名	寸法(cm) 縦×横	年代	現在の 主な地名	No.	資料名	寸法(cm) 縦×横	年代	現在の 主な地名
1	三室村宿組絵図	27.9×40.3	天保7年(1836)7月	緑区新宿	27	氷川女体神社鹿絵図	37.6×74.4	明治4年(1871)7月	緑区宮本
2	三室村山崎組絵図	27.4×39.2	天保7年(1836)7月	緑区三浦・大道・浦和区三崎	28	新井村新田絵図	53.9×38.4	明治9年(1876)4月1日	見沼区東新井
3	道祖土村絵図	39.1×27.3	天保7年(1836)7月	緑区道祖土	29	三室村山崎組絵図	27.4×39.4	(幕末～明治維新时期推定)	緑区三浦・大道・浦和区三崎
4	上山口新田絵図	32.6×70.4	天保7年(1836)7月	見沼区上山口新田	30	絵図雛形	26.3×37.5	(幕末～明治維新时期推定)	
5	加田屋新田絵図	23.4×32.5	弘化3年(1846)8月	見沼区加田屋・加田屋新田	31	三室村馬場組新田絵図	38.2×26.8	(幕末～明治維新时期推定)	緑区宮後
6	三室村之内山崎組絵図	27.3×40.0	嘉永2年(1849)9月	緑区三浦・大道・浦和区三崎	32	三室村之内山崎耕地絵図	35.1×43.4	(幕末～明治維新时期推定)	緑区三浦・大道・浦和区三崎
7	三室村之内松木組絵図	26.6×37.8	明治3年(1870)2月	緑区見沼	33	鈴谷村絵図	39.5×28.1	(幕末～明治維新时期推定)	中央区鈴谷
8	三室村之内芝原田組絵図	27.3×32.1	明治3年(1870)2月	緑区見沼	34	針ヶ谷村絵図	27.4×39.1	(幕末～明治維新时期推定)	浦和区北浦和・針ヶ谷
9	町谷村絵図	27.8×38.1	明治3年(1870)2月	桜区町谷	35	駒場村絵図	27.1×38.4	(幕末～明治維新时期推定)	浦和区駒場
10	根岸村絵図	24.4×32.9	明治3年(1870)2月	南区根岸	36	瀬ヶ崎村絵図	27.8×38.4	(幕末～明治維新时期推定)	浦和区瀬ヶ崎
11	文蔵村絵図	27.2×39.2	明治3年(1870)2月	南区文蔵	37	沼影村絵図	38.4×27.1	(幕末～明治維新时期推定)	南区沼影
12	岸村絵図	27.4×38.8	明治3年(1870)2月20日	浦和区岸町・東岸町	38	鹿手袋村絵図	26.3×35.3	(幕末～明治維新时期推定)	南区鹿手袋
13	広ヶ谷戸村絵図	39.9×27.7	明治3年(1870)2月	南区広ヶ谷戸	39	辻村絵図	39.1×27.1	(幕末～明治維新时期推定)	南区辻
14	上木崎村絵図(部分)	24.3×33.1	明治3年(1870)2月	浦和区上木崎	40	西堀村絵図	27.1×38.4	(幕末～明治維新时期推定)	桜区西堀・桜田
15	別所村絵図	38.7×27.3	明治3年(1870)2月	南区別所	41	中尾村絵図	39.5×26.6	(幕末～明治維新时期推定)	緑区中尾
16	田島村絵図	27.0×37.4	明治3年(1870)2月	桜区田島・南区四谷	42	宿組絵図	27.0×37.9	(幕末～明治維新时期推定)	緑区新宿
17	関村絵図	27.3×39.5	明治3年(1870)2月	南区関	43	大谷口村絵図	27.8×38.5	(幕末～明治維新时期推定)	南区大谷口
18	下大久保村絵図	27.0×39.7	明治3年(1870)2月	桜区下大久保	44	領家村絵図	26.8×39.4	(幕末～明治維新时期推定)	浦和区領家・大東
19	上山口新田絵図	27.2×37.7	明治3年(1870)2月	見沼区上山口新田	45	元宿村絵図	40.4×27.2	(幕末～明治維新时期推定)	桜区南元宿
20	道場村絵図	27.4×54.0	明治3年(1870)2月	桜区道場	46	本太村絵図	27.0×39.6	(幕末～明治維新时期推定)	浦和区本太・元町・前地
21	原山新田絵図	27.4×39.2	明治3年(1870)2月	緑区原山	47	大戸村絵図	39.6×26.7	(幕末～明治維新时期推定)	中央区大戸
22	蓮見新田絵図	26.8×38.4	明治3年(1870)2月	緑区蓮見新田	48	落合村絵図	47.3×67.6	(幕末～明治維新时期推定)	中央区下落合
23	上木崎村絵図	23.9×34.2	明治3年(1870)2月	浦和区上木崎	49	下落合村北組絵図	47.2×68.1	(幕末～明治維新时期推定)	中央区下落合
24	道祖土村絵図	38.1×27.0	明治3年(1870)2月	緑区道祖土	50	大谷場村絵図	39.8×53.5	(幕末～明治維新时期推定)	南区大谷場・南浦和・南本町
25	下木崎村絵図	45.3×39.7	明治3年(1870)2月	浦和区木崎・大原	51	円正寺村	26.9×39.4	(幕末～明治維新时期推定)	南区円正寺
26	新開村絵図	27.5×40.6	明治3年(1870)2月	桜区新開					

※いずれも個人蔵・さいたま市立浦和博物館寄託

日誌抄 (平成29年度上半期)

H29/4/1(土)～5/7(日) 昔の道具さがし
 4/29(祝)～5/7(日) 昔のあそび
 6/10(土) 親子探鳥会
 6/16(金) 三室小学校(2年生)地域学習
 7/4(火)～7/7(金) 館内燻蒸作業
 7/15(土)～8/27(日) 企画展「夏休み子ども博物館」、文化財さがし
 7/22(土) 手づくりおもちゃ

7/23(日) 缶ぽっくりづくり
 7/29(土)・30(日)
 見沼通船堀のしくみ実験
 8/19(土) まが玉づくり
 8/19(土)・20(日) 社会教育実習
 8/20(日) 見沼通船堀のしくみ実験
 9/9(土)～18(祝) 浦和レッズ25th周年記念展(市共催・市教育委員会後援)
 9/15(金) 三室小学校(2年生)地域学習

さいたま市立浦和博物館館報 あかんさす No.114

編集・発行 さいたま市立浦和博物館
 〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地 TEL・FAX 048-874-3960
 発行日 平成30年3月9日
 ホームページ <http://www.city.saitama.jp/004/005/005/004/002/index.html>
 E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp



この館報は2,000部作成し、1部当たりの印刷経費は26円です。

